

## 与信管理編 1 : 「取引先の審査をしたい」報告書のどこを見る？

### (審査マンの悩み)

ある企業と新規取引を検討している。相手企業のことは社名を知っている程度で、財務内容や支払い面で安心な先かどうかまでは分からない。

そこで審査を行うため TDB 調査報告書を取りよせたが、まずどこから見たらよい？

調査報告書の基本的な読み方をご説明します。

## ステップ 1 : 【企業概要欄】で総合的な評価を見る

### 【企業概要】評価欄

信用要素別評価				信用程度	
業歴 (1~5)	2	企業活力 (4~19)	13	A (86~100)	
資本構成 (0~12)	4	加 点 (+1~+5)	-	B (66~85)	
規 模 (2~19)	5	減 点 (-1~-10)	-	C (51~65)	
損 益 (1~10)	7	合 計 (100)		<b>D (36~50)</b>	
資金現況 (0~20)	11			E (35以下)	
経 営 者 (1~15)	8				
					50

まず、企業概要を見てみましょう。ページの下部に「評価」が記載されています。

評価は全9項目の信用要素の各評点からなります。評点の合計は企業の総合的な信用力として見ることが出来ます。また、評点の合計点は5段階の信用程度に分類されます。

この企業の評点は50点、信用程度はDランクと高くはありません。信用要素の内訳から、その企業の「強み」「弱み」を見極め、判断する必要があります。

## ステップ 2 : 信用要素の内訳を見る

信用要素別評価			
業歴 (1~5)	2	企業活力 (4~19)	13
資本構成 (0~12)	4	加 点 (+1~+5)	-
規 模 (2~19)	5	減 点 (-1~-10)	-
損 益 (1~10)	7	合 計 (100)	
資金現況 (0~20)	11		
経 営 者 (1~15)	8		
			50

信用要素の各配点の中で高い点となっているのは企業にとって優れている要素、また低い点となっているのは企業にとって課題となっている要素を示します。

この企業は、「業歴」と「規模」の配点が低い一方、「損益」と「企業活力」が高い点となっています。

言い換えれば「業歴が浅く規模はまだ小さいが、黒字決算を続ける成長企業」と想像できます。

## ステップ 3 : 企業の強み弱みを報告書本文の中から読み込み判断する

信用要素毎の配点を踏まえ、企業の優れている部分と課題となっている部分を本文の中から読み込み判断します。

信用要素の配点が高い「損益」について、結果要因を【業績欄】で確認します。

**【業績欄】**

決算期	売上高	営業利益 増加率 (%)	経常利益 増加率 (%)	当期純利益 増加率 (%)	配当総額	申告所得(千円)
平 14 5	◎4930,464	◎89,739	◎77,501	◎23,858	-	66,651
15 5	△5.0 ◎4679,011	△16.0 ◎75,341	△33.0 ◎50,376	△18.0 ◎19,496	-	43,323
16 5	1.0 ◎4730,480	9.0 ◎82,110	17.0 ◎59,131	25.0 ◎24,295	-	48,512
17 5	△1.0 ◎4588,566	△5.0 ◎76,383	△17.0 ◎48,801	△14.0 ◎20,815	-	40,030
18 5	△3.0 ◎4450,909	△7.0 ◎16,151	◎△11,834	◎△20,020	-	-
19 5	3.0 ◎4584,423	334.0 ◎70,083	- ◎40,013	- ◎18,541	0	-
20 5季	△6.0 ◎4300,000	△14.0 ◎60,000	△25.0 ◎30,000	△19.0 ◎15,000	0	-

令和2年度決算公告

**業績特記事項**

平成16年5月期は、自動車業界向けと東南アジア向け輸出が増加し増収増益となった。  
 平成17年5月期は、トラック向けと東南アジア向けがダウンし、減収減益となった。  
 平成18年5月期は、前年に引き続き東南アジア向けが落ち込んだ結果、減収を余儀なくされた。収益面についても、素材市況高騰の影響が大きく、粗利益率が前期比1.6ポイント後退したことから、減収作用と合わせて経常・当期段階ともに欠損計上を強いられた。  
 平成19年5月期は、アジア向け切削工具の輸出が堅調に伸び、増収増益となった。

**【業績欄】**  
過去最大6期分の業績の推移に加え、業績結果の要因について記載しています。

**活用ポイント:「業績結果の要因を読み込む」**  
業績好調であっても、特定の取引先への依存度が高ければ、受注減少のリスクも織り込む必要があるでしょう。

さらに審査の精度を高めるには  
依存度の高い主力取引先の報告書を確認することで、連鎖倒産のリスクや、その動向によって与える影響度合いを判断することで、さらに審査の精度を高められます。

(2)【資金現況欄】で、現在の業況や収益状況が平常に保たれ、懸念材料が無いか確認します。

**【資金現況・不良債権】**

**資金現況**

要況(売上)	大幅増加	増加	横ばい	減少
収益性	良好	◎普通	悪いが改善可能	悪く改善困難
回収状況	良好	◎普通	一部遅延	遅延
支払能力	十分にあり	◎あり	やや苦しい	苦しい
資金需要動向	なし	◎前向き資金需要あり	後向き資金需要あり	-
資金調達余力	十分にあり	◎あり	ほぼ限界	限界

**【資金現況】**  
調査時点で捉えた短期的な資金繰り状況を業況・収益性・回収状況・支払能力・資金需要動向・資金調達余力の6つの指標から評価。

**活用ポイント**「6つの指標を併せ見る」  
 例1. 業況「大幅増加」、支払能力「やや苦しい」、資金調達余力「ほぼ限界」  
 運転資金不足による突発的な破綻リスクが。  
 例2. 業況「減少」、収益性「普通」、支払能力「あり」  
 受注減ながら、費用圧縮によって収益性を維持し資金面の不安を乗り切っている。

指標を単一ではなく、それぞれを併せ見て、資金繰りの全容をとらえることが大切。

(3)【現況と見通し】の「最近の動向と見通し欄」で、企業のもつ「強み弱み」や「環境面の良し悪し」を踏まえた最終的な評価を読み込み判断します。

**【現況と見通し】最近の動向と見通し欄**

**最近の動向と見通し**

平成20年5月期については、前期よりも自動車部品の需要が若干持ち直し、特に主力取引先の青山自動車からの受注は増加しているものの、当社の主力得意先層である中堅以下のメーカーでは、いまだ設備投資に慎重な先が大半を占めることから、9月末時点までの平均月商は3億6,000万円内外と前期に比べ減少している。  
 また損益面では、依然原材料である素材金属の価格上昇の幅を受け、粗利益率は2.6%で推移し前期比約2ポイント減となっているが、採算は確保されている。  
 原料価格の上昇や大手商社・金融機関による同業他社の系列化など業界環境も厳しい状況下にあり、今期売上高は43億円強、経常利益は3,000万円を見込んでいる。  
 国内の業界上位の技術力を保有し新商品の開発を打ち出すなど前向きな動きがみられ、加えて資産背景なども充実していることから、当面は無難な運営が予想される。

**【現況と見通し】最近の動向と見通し**  
調査員がその企業を取材結果、業界環境や取材の裏付けをもとに、企業評価を総括しています。

**活用ポイント「最新の状況を確認」**  
 今期の業績目標に対して、現時点の受注状況や業績目標に対しての進捗を確認し、企業の成長過程にかけりが無いかを見極めましょう。  
 また、新規事業立上や大口受注等の最新のトピックにも注目してみましょう。

さらに審査の精度を高めるには  
企業の評価は、時間の経過とともに変化します。今後の業績の進捗や変化をとらえるためにも、継続的に報告書を取得し審査することが大切です。

ここではTDB報告書のごく一部を使った基本的な読み方をご説明しましたが、報告書には、ほかに登記役員大株主、従業員設備概要、代表者、系列沿革、現況と見通し(事業内容・会社の特色・業績の推移・資金現況と調達力)、取引先、銀行取引、財務諸表、不動産登記写といった情報が基本収録されています。各々の情報も参照の上、取引先の審査に活用ください。

(なお、ここで用いた報告書サンプルについて実在する会社・個人とは一切関係ありません)